

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 3月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	2270100461
法人名	有限会社 ケアシェルパ
事業所名	グループホーム あたがわ
所在地 (電話番号)	〒413-0302 静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本1423-107 0557-22-6411
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成21年1月29日

【情報提供票より】(平成21年1月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年2月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 13 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	12.7 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

(4) 利用者の概要(平成21年 1月4日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名	
要介護1		名	要介護2	6	名	
要介護3	6	名	要介護4	6	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	81 歳	最低	61 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊豆東部総合病院(内科・外科) 熱川温泉病院(歯科) 伊豆高原クリニック
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

今回3回目の外部評価となった。継続して関わる中で、改善をお願いしたことが次回に必ず取り組まれていて、評価調査を前向きに活用するホームの姿勢が見られる。今回、時間を作り出し毎週のミーティングが定例化したことにより、情報の共有、勉強会、カンファレンスが充実し、中身の濃い介護計画書や肌理細やかなケアに繋がった。地域に対してはキャラバンメイト活動により、認知症への偏見をなくし、介護予防に対する理解を深める講座を数回にわたって繰り返している。職員と利用者が仲が良く、職員のチームワークにより人手不足を乗り越えたことが複数の職員から聞き取れたが、家族アンケートには、介護職員を取り巻く社会の状況が改善されることを願う意見も見られた。折にふれ介護で頑張る人々が夢を持って働ける社会環境整備を訴えてゆきたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、介護計画作成の為に情報共有にミーティングの開催や、勉強会のあり方等について改善課題であったが、毎週のミーティングが実現してその運営により、情報の共有から教育や介護計画まで大きく改善されている。理念の策定は今後の課題となった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員が参加できるように昼食後の時間を利用して毎日少しずつ話し合っ各ユニットごとに記入した。話し合いの中で、項目の中には職員が普段心掛けていたり、実践していることも多く、ホームのケアが肯定されたようで自信にもつながっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催されているが、次回開催に繋げるテーマに悩んだり、参加者が限定される傾向にあり、行事に絡めたり、日曜日の開催にして参加を促しているが形式的な会議となる場合もある。現在、地域包括支援センター職員の計らいでキャラバンメイトの活動を中学校でも開催できるよう働きかけている。認知症への理解を深め偏見をなくしたり、介護予防の観点からも積極的な取り組みをお願いしたい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>「あたがわアルバム」や毎月の手紙で様子をお知らせしており、健康に関しては逐一報告している。また、毎月の支払いをホームに持参してもらい利用者の様子を直接確認していただきその機会に家族から要望を聞きだしたり運営推進会議で意見を出していただいており、それらは職員で話し合い対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入して区の食事会やスポーツ大会、葬儀に職員が出席して地域の一員としての役割を担ったりホームをアピールしている。利用者は地域行事やふれあいきいきサロンへ参加して地元の人々と交流できるよう取り組んでいる。ホームでのイベントには近隣の方に声をかけて、餅つきには一緒に楽しんでいただいた。日常的には近所の方が、ホーム行事には民生委員が協力してくれ、年を経るごとに地域の中に溶け込んでいる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「日々の暮らしにもっと自立と安らぎを、生きがいのある暮らしを、優しい手の温もりと微笑を」をホームの理念として掲げている。	○	地域密着型としての理念の策定には至らなかったが、キャラバンメイトの活動等地域貢献されている。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や法人の方針はホーム内に掲示している。職員入職の際には理念を説明して共有を図っている。職員は理念を当たり前のこととして利用者の持てる力を引き出し、打ち解けながら一緒に生活している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事やふれあいいきいきサロンへの参加等利用者が地元の人々と交流できるよう取り組んでいる。近所の子供たちが遊びに来たり、散歩時には地域の方々とコミュニケーションをとったり、ホーム行事には民生委員の協力もある。ホームからは地域の必要に応じて駐車場の使用を申し出るなど円滑な関係作りがされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が参加できるように昼食後の時間を利用して毎日少しずつ話し合っ各ユニットごとに記入した。話し合いの中で普段心掛けていたり、実践していることも多く、職員が頑張っていることが確認できた。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されているが、テーマに詰まってきたり、参加者が少なかったりする傾向にあり、行事に絡めたり、日曜日の開催にして参加を促しているが形式的な会議になっていることは否めない。	○	地元の福祉の担い手である民生委員や婦人会等幅広い立場の方の参加が期待できるような方策が望まれる。テーマについては振込め詐欺等の時事問題や社会情勢等広い範囲からサービスの向上や、地域への貢献につながる話し合いが期待できる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の人の理解とサポートを得るため職員が認知症キャラバンメイト活動を行っており、町と共に開催に向け取り組んでいる。利用者の入居に関して役場の担当課と相談・連携している。地域包括センターが協力的であり相談に乗って戴いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している多ページに及ぶカラーの「あたがわアルバム」で利用者のホームでの生活やエピソードなどきめ細かくお知らせしており、個々には毎月手紙で様子を、健康に関しては逐一報告している。また、毎月の支払いをホームに持参してもらい利用者の様子を直接確認していただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情相談担当者名及び町や国民健康保険団体連合会(国保連)の苦情窓口を明記している。利用者や家族から苦情が届くことはないが、運営推進会議の折に意見を出していただいております、要望は職員で話し合い対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や入職しても続かないこともあり、世間で言われるとおりの介護職不足に悩まされてきたが、ベテラン職員を中心に管理者もローテーションに入って連携し、利用者への影響を抑えるよう取り組んだ。職員交代には日ごろの仔細な記録を利用者の理解に活用し新しい職員と利用者の信頼関係作りを図っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人手が少なかった状況から、十分な勉強会が持てなかったとの説明であったが、職員は一週間に一度のミーティングを活用し、利用者の変化や個々の反省点等話し合い利用者により良いケアが提供できるよう、OJT(職場内での実務研修)により学んでいる。	○	内部勉強会をより活用するために、内容について年間計画を立て系統立てた勉強が出来るような取り組みをお願いしたい。また基本的なケア方法の統一などについても話し合うことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他ホームと利用者を含めて交流を持っている。納涼祭等行事に訪問したり招いたりする中で、自己のケアにないものに気付いたり、自信をつけたりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者はホームに来て過ごしたり、体験利用してもらい安心して利用できるよう本人・家族とも相談しながら取り組んでいる。また、既利用者との相性なども配慮し馴染みやすい環境作りを図っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の生活にそれぞれの利用者が役割を持っている。誕生日のお祝いには皆でケーキを作り、101歳の利用者が祝辞を読んでもらう。職員には利用者が元気でいてくれることが喜びであり、共に喜怒哀楽を分かち合う暮らしが展開されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の変化や暮らし方の意向等職員が得た情報や気づきは毎週のミーティングや日々の話し合いで細かく検討されすべて連絡ノートに記録して全職員が共有・把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	看護師である介護支援専門員は利用者にて体操をしてもらいその様子を職員と話し合っ利用者運動機能の確認をしている。ミーティングでは、介護支援専門員を中心に担当者の考え他の職員の意見を出し合っ利用者個々に相応しい介護計画を作り出している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直されており、その内容は職員の細やかな観察と利用者の希望の把握、そして何より職員が目標達成のために知恵を出し合っていることが窺われた。事務的・形式的な見直しでなく温かな視点で丁寧に見直された介護計画書である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診時の付き添いは基本的には家族が行くことになっているが、家族が付き添えない場合には職員が付き添っている。町内のふれあいいきいきサロンへの参加や買物等外出を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の医師、ホームの提携医、従来からのかかりつけ医と利用者は希望により受診している。専門医受診も利用者の信奉する医師の受診を支援している。受診には通院シートにて利用者の身体状況を伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療行為が必要になった場合には病院へ入院していただくことを説明しているが、既に2名の看取りに携わっている。医師・家族と話し合って希望を確認、家族の意向を受け入れ、医師のバックアップと家族との連携により対応している。職員は医師や看護師から処置等を学び対処している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけなどは一様ではなく、個々の希望や状態を踏まえた対応を心掛けている。経過記録はイニシャル表記により個人が特定されないよう留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな時間の流れはあるが、過ごし方は強制することなく利用者の希望を優先している。利用者との信頼関係が築かれて、利用者同士の助け合いもある中で、職員がうまく連携して出来るだけ利用者のペースに合わせた支援をしており、チームワークの良いことがホームの特徴であることが確認できた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は冷蔵庫の中身や利用者のリクエストを聞きながら立てている。野菜切りや皮むき、米研ぎや盛り付け等利用者は得意な作業を楽しんでこなしている。年長者の「頂きます」の挨拶で始まる食事は職員も一緒にゆったりして利用者がお茶のお変わりをサービスしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は基本的に決まっているが、希望によって対応している。入浴しない日にはフットバスを使ったり清拭で清潔を保っている。失禁にはシャワーや入浴でさっぱりしてもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字やお茶、読書や編み物、カラオケ・ダンス等々利用者には特技を持つ方が多く、図書館へ行ったり、お茶のお手前をしてもらったり、カラオケを披露したりしている。猫の餌やりを責任を持って続けたり、畑の作業を共に楽しんだり、すべての利用者一人ひとりに楽しみを見つけ出している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの広い庭で利用者が自由に外気を吸うことができるよう玄関先には椅子が並んでいる。また、天気と相談しながら近隣を散歩し明日葉を摘んできたり、いきいきサロンへの参加や図書館、買物がてらのドライブなど、利用者の要望や状態を考慮しながら満遍なく外出の機会を持てるよう努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は施錠しないことを当たり前としている生活の中で、洗濯物の乾き具合が気になる利用者は幾度となく外へ出て確認している。時には利用者が庭の外へ出てしまうこともあるが見守り・確認により自由な暮らしを支えている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は定期的実施しており、消防署で施設の中をチェックしてもらい、洗面所の出入り口にスロープを設置するなどアドバイスに速やかに対応している。訓練時には近隣の方に呼びかけて参加をお願いしている。	○	近隣の方の参加はなかなか実現しにくいですが、関心を持っていただくよう続けて参加を依頼してゆかたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	美味しい食事は殆ど完食されているが摂食割合を記録して毎月の体重測定と併せて栄養状態の過不足をチェックしている。医師の指示がある場合は個別に対応し、必要に応じて水分摂取等を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先の花壇には地植えのシクラメンが並び、ホーム内には生花が其処此処に飾られて明るい彩を作っている。ホーム内は清潔で、整然として利用者の行動の妨げになるようなものはない。利用者の手による絵画や貼り絵、行事を楽しんでいる写真などが壁に飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾り棚や本棚、窓辺に椅子を置いて好きな読書にふけるには最適な部屋、遺影や電池で灯るろうそくや線香を置いて大切な方を安全に偲ぶことが出来るように設えた部屋、また、利用者のその日の状態によってすべてのものが押入にしまわれた部屋等、一様に当てはめることなく利用者が納得いく部屋作りを支援している。		